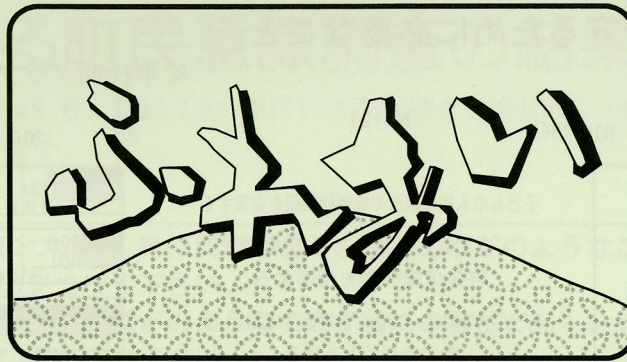


いろいろな人と人とのつながり、
ふれあいを美浜のMと波で
イメージしました。



美浜町人権尊重啓発協議会会報

臨時増刊号

発行：平成22年10月22日

編集：人権協広報調査部会

連絡先：美浜町生涯学習課

TEL 32-6709

FAX 32-9032

E-mail: jinkenkyo@town.fukui-mihama.lg.jp

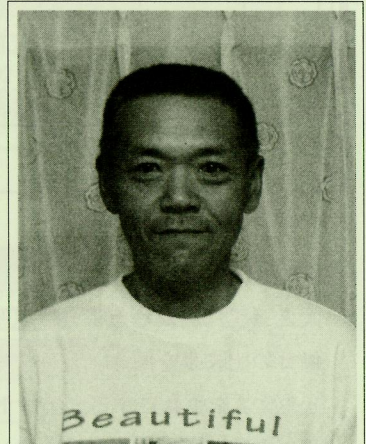
明るく住みよいまちづくりのために
なごやかな人間関係をつくるために
こんな活動をがんばってま〜す

「知らせて下さい！ こんな活動を…」と各集落評議員の皆さんにお願いしたところ、上野区からこんな活動のお知らせが寄せられました。

「うわの夏祭り」の開催

今年で9回目を迎えた「うわの夏祭り」は、毎年8月14日に実施しています。以前から行われていた盆踊りなどが一時的に途絶えてしまいましたが、上野区の活性化を目的に、原田克美さん、前田啓志さん、熊谷誓成さんら若いメンバーが中心となって復活しました。

夏祭りのメインとも言える「上野区内全戸の家族集合写真のスライドショー」は7回目の3年前から始まりました。スライドショーを音楽にのせて上映した初めの年は、区内の家の中が空っぽになるほどみんなが集まり、見て喜んで、ほほえんで、中には涙している方までいて、大好評だったそうです。ここ3年の参加率も上野区民の9割を超えているとか。



実行委員長の原田克美さん

地区の方の「ありがとう」という声の反響や懐かしい人に会えることがやり甲斐につながっています。



班対抗ジェスチャーゲームの一場面

地域のつながりや家族のつながりがますます濃くなっていき、かけがえのない人の存在に改めて気づかされる素敵な取り組みを、20才から40才の若いメンバーが中心となって作り上げている「うわの夏祭り」は今年も大盛況だったようです。今年は『「原点回帰」パッション&ビート』をテーマに、●いちやりばちょーでー(三線のサークル)●新風(しんか)(エイサーのサークル)●缶釣り大会 ●班対抗ジェスチャーゲーム ●カラオケ ●抽選会 ●出店(飲み物・焼き物・揚げ物・子どもゲーム) ●スライドショーと盛りだくさん。特に大好評のスライドショーは年々進化しており、各戸の家族の集合写真に加え、区の中行事の写真やペットの写真まで盛り込まれているそうです。

＝参加された区民の方の声＝

いつもスライドショーを観るのが楽しみです。村が一つの家族のように思えます。

皆さんの身近なところで「人と人のつながりを深めるために、こんな行事(活動)をやっています！」ということがあれば、人権協事務局まで教えて下さい。

人権に関する町民意識調査の結果から その4

その3(人権協だより第42号 H22.7.23 発行)に引き続き、今回は、「子どもの人権について」の結果を報告させていただきます。

<アンケートの質問内容>

- 問11. 子どもの人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。
(3つまで選んで○をつけて下さい。)
- 問12. 子どもの人権を守るためにはどのようなことが特に必要だとおもいますか。
(3つまで選んで○をつけて下さい。)

問11. 子どもの人権問題について問題があると思うこと グラフ中のNは回答者数

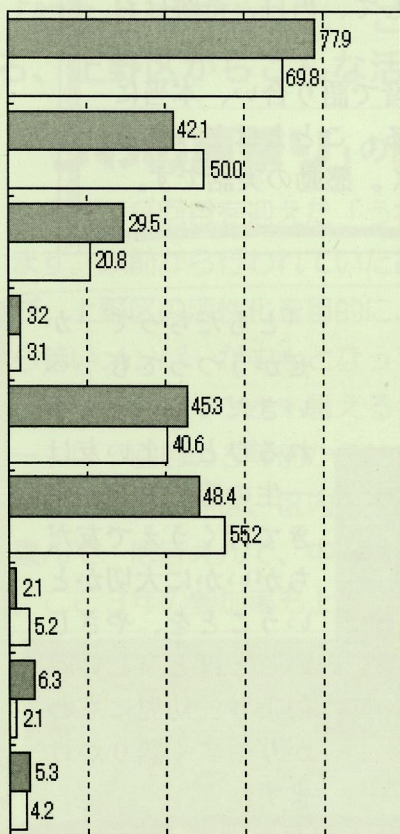
<男女別グラフ>

<年代別グラフ>

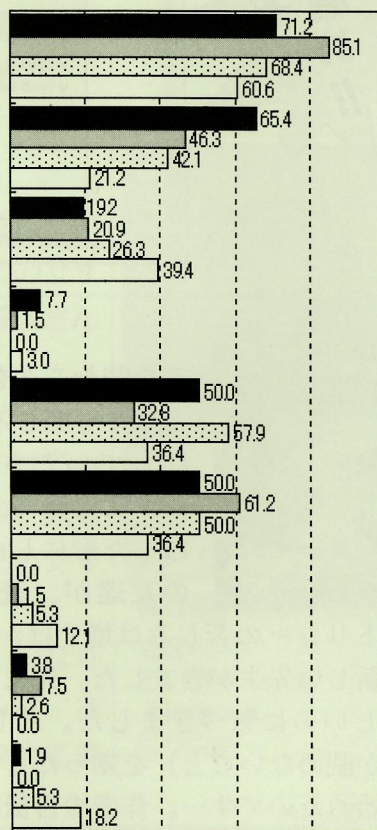
N=191

0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0 (%)

0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0 (%)



- 「仲間はずれ」や「無視」、容姿に関する悪口等、身体への直接攻撃や相手がいやがることをしたり、させたりするなどのいじめを行うこと
- 家庭で親が子どもを虐待すること
- 学校や就職の選択などに関する子どもの意見について、親がその意見を無視すること
- 学校で教師が体罰を行うこと
- 子どもを成績や学歴だけで判断すること
- 暴力や性など子どもにとって有害な情報(インターネット・出会い系サイト・ポルノ雑誌等)がたくさんあること
- 特に問題があると思うことはない
- その他
- 不明・無回答



■男性(N=95) □女性(N=96)

■20歳代・30歳代(N=52) ■40歳代・50歳代(N=67)
□60歳代(N=38) □70歳以上(N=38)

その他の回答

- 社会が子どもたちに上記のことについて現実を知らせていない。弊害を隠そうとしているように思う。(1)
- 教育者の責任の無さ(子どものための教育であって、親の機嫌を気にしすぎ)。学校の事に親が口を出しすぎ。(1)
- 一人の人間として、考え方、その他毎日の行いを聞き、十分納得するまで話し合う。(1)
- 学校で教師が権力で生徒に圧力を色々な面でかける。(1)
- 余裕があれば子どもたちと遊んでやることなどがいいと思う。(1)
- 親自身、子どもと正面から対話できるか。(1)
- 近年、安全・防犯の気遣いの高まりの結果、子どもたちの遊びの場が失われていること。(1)
- 「特に問題があると思うことはない」以外全部が問題であり、3つ選びようがない。(1)

問 12. 子どもの人権を守るために必要なこと

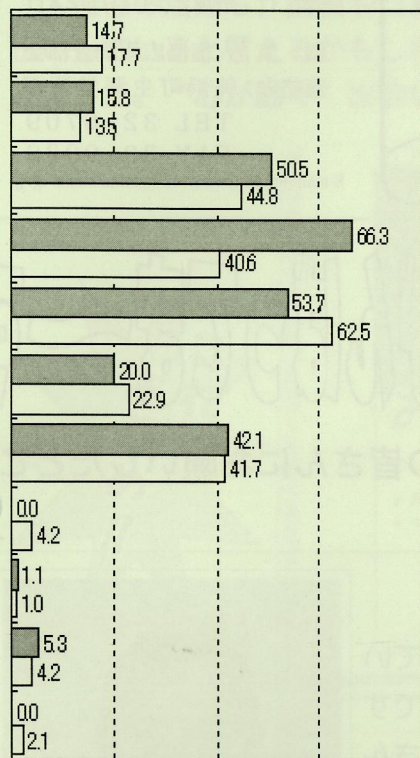
<男女別グラフ>

<年代別グラフ>

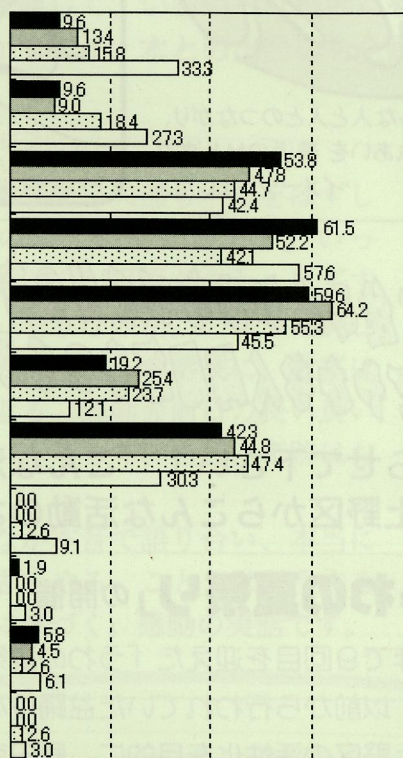
0.0 200 400 600 800 (%)

N=191

0.0 200 400 600 800 (%)



子どもの人権相談所や電話相談所を充実する
 子どもの人権を守るための啓発広報活動を推進する
 子どもの個性・自主性を尊重するような社会をつくりあげる
 親の家庭でのしつけや教育力を向上させる
 家庭・学校・地域の連帯意識を高め、三者が連携して活動に取り組む
 児童売春・児童ポルノ等の取り締まりを強化する
 インターネットや携帯電話の規制を強化する
 特に必要だと思うことはない



■男性(N=95) □女性(N=96)

■20歳代・30歳代(N=52) ■40歳代・50歳代(N=67)
 □60歳代(N=38) □70歳以上(N=33)

その他の回答

- 大人(親)が変わるように(叱り方、ほめ方、人権感覚を磨くなど)努力しないといけないと思う。(3)
- 毎日の出来事を聞き、どうするか、どうしたか、を話し合うなど、なんでも気兼ねなく話せる機会をつくる。(2)
- 1クラスを少数にする。アットホームにする。クラスを持ち上がりにする。(1)
- 我々の地域ではあまり聞かない。(1)
- 人権を他人に守ってもらう意識を捨てることだと感じる。(1)
- 不特定多数の子どもの意見をいかして考えることがいいと思う。(1)
- 学校生活について先生の質の向上も必要だが、先生に対して口を挟むことは控える方がいいと思う。(1)
- 結果的説明は易しいが説明に過ぎない。(1)

結果総括

<問 11 について>

子どもの人権問題については、「いじめを行うこと」が最も高くなっている。性別にみると「暴力や性など子どもにとって有害な情報がたくさんあること」では女性の方が高くなっている。年齢別にみると、20歳代・30歳代で「家庭で親が子どもを虐待すること」の割合が他の年齢に比べて高くなっている。

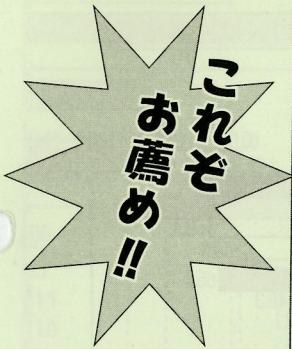
<問 12 について>

子どもの人権を守るために必要なことについては、「家庭・学校・地域の連帯意識を高め、三者が連携して活動に取り組む」が最も高くなっている。性別にみると、「親の家庭でのしつけや教育力を向上させる」では男性が、「家庭・学校・地域の連帯意識を高め、三者が連携して活動に取り組む」では女性の方が高くなっている。

みなさんのご家庭でも、この結果を家族で話題にしていただけると幸いです。

“出会い”って素敵な言葉だと思いませんか。私たちは、多くの人との出会いによって、喜び楽しみ、ときには傷つき悲しみます。でも、ある時ふりかえると、その一つ一つが思い出となり、人生の年輪となっているのではないのでしょうか。

人権協の活動も、講演やコンサート、啓発冊子、作品集などを通して、いろいろな出会いをお手伝いしていると言えるかもしれません。そこで今回は、ささやかですが、本との出会いを企画してみました。“心が動く”出会いをしていただければ幸いです。



「大縄跳びで、矢部ちゃんをはずして跳ぶのは、いやなんです」いっしょに跳ぶのが平等なのか、はずすのが思いやりなのか。「ぼくは跳びたい」矢部ちゃんの言葉に、教室は静まり返る。運動会前日の長い長い話し合い。そして、当日、奇跡はおこった。

みんなが本音で語り合い、本当に「友を思いやる」こととはどうすることかに気づく。感動の実話です。



本を読むことを、とっても楽しみに

親子で読んで もらいたい絵本

にしていたトリシャ。でも、トリシャにとって、字も数字も、くねくねした形にしか見えません。クラスの友達が、読めないことを笑うので、トリシャの苦しみは増すばかり。5年生になったとき、新しい先生がきました。先生は、トリシャの絵が素晴らしいのに気づきました。そして、トリシャの秘密(字が読めないこと)を知ったとき、先生は、特別な練習を始めたのです…。作者の自伝的なおはなしです。

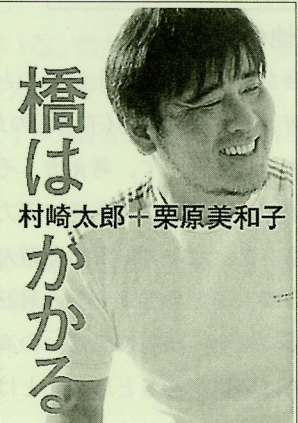


「ともだちって かげがうつっても へいきだっていってくれるひと」よい友は一生の宝であり、生きて行くうえで友だちがいかに大切かということを、やさしいことばと楽しい絵により、幼児にもわかりやすく語りかけます。

最近話題になった新刊本

被差別部落出身であることを公表した村崎太郎。ごく一般的な家庭に育った栗原美和子。悪戦苦闘の3年間、少しずつみえてきた希望の橋。

「太郎が恋をする頃までには」著：栗原美和子(幻冬舎)、
「ボロを着た王子様」著：村崎太郎(ポプラ社)の2作を読んでからだ、夫婦それぞれのこの問題に対する捉え方がよく分かり、よりいっそう楽しめますよ。



※ ここで紹介した本はすべて美浜町立図書館で借りることができます。